発行　清高会事務局

希望の海へ

清高会会報

25号

https://www.seikokai.net/

第9回総会　開催！

10月25日（土）
13:30～

｜会場｜国立清水海上技術短期大学校内

久しぶりに母校を見てみたい！新しい練習船も係留中！
この日は清水校の卒業生なら誰でも、全国から学校に集まれる日です。
海運世界から離れてしまった方も、みなさん学校へ帰ってきてください。
自宅に届くハガキから参加連絡お願いします。（当日飛び入りも…）

新会長挨拶

清高会会長　**清水 昭一郎**
（甲板科 23 期）

清高会の皆さんこんにちは。恙なくお過ごしのことと存じ上げます。

この度、前会長瀬上様ご退任にともない後任会長を務めさせていただきます清水昭一郎と申します。清水海員学校甲板科 23 期の卒業生です。（古すぎますね）

本校の歴史は古く本年創立 80 年を迎えることになりました。延べ卒業生は約 13000 余名となります。多くの卒業生は海運またその関連業種に就業しました。また転職され活躍されている方もおります。本校での共同生活の経験が大いに役立ったことと思います。皆、日本の経済発展に貢献してきましたことは自負してもいいのではないでしょうか。海上物流なくして日本経済は成り立ちません。

操船技術、エンジン、重油に代わる燃料など、経済の発展と共に社会の様々な変化に順応できる心掛が必要と思われます。異常気象に起因する温暖化、大規模災害による生態系の変化など、人類の英知で解決すべき事が困難な状況のなか、生成 AI・科学（化学）技術の変化はとどまることなく進歩しています。

人間関係の本質まで大きく変わってきています。勤勉さ、責任感や協調性、多くの日本人が持つ特質は忘れないようにして生きて行きたいと思います。自分を大切に、他人から愛される、よい信頼関係が生まれる社会を望みます。与えられた使命を誠実に、一歩一歩、ポジティブに捉え活動していきましょう。

（人生訓）
恩は石に刻め、怨みは水に流せ
受けた恩は忘れるな、嫌なことは忘れろ
額に汗かき、真面目にコツコツ
ウサギと亀、真面目が一番強い

CONTENTS

1　会長挨拶　清水 昭一郎
2-3　副校長挨拶　関本 達朗
ダイナミックな自然環境と新「かざはや」
4-6　在校生の声
7　新任教官　山浦 照良
〈投稿記事〉
35 期生　布花原 槻
8　親子インタビュー
（父）38 期生　猪田 隆斗
（子）13 期生　猪田 隆志
9　インタビュー
36 期生　遠藤 朱梨
10-11　同窓会開催報告　高石 守人
11　最近の学校ニュース
11　役員紹介・編集後記

副校長挨拶

Fuji, the highest mountain in Japan, and Suruga Bay, the deepest bay in Japan, these dynamic natural

国立清水海上技術短期大学校

副校長 **関本 達朗**

清高会の皆様、こんにちは。令和６年４月より長崎県にあります国立口之津海上技術学校より赴任しました副校長の関本です。清水校への勤務は３度目となります。最初に赴任したときにカッター部を立ち上げ、日々の練習や東日本大学カッター競技会へ参加したことがつい最近のことのように懐かしく思い出されます。

令和７年２月現在、長期乗船実習を終えた２年生第 38 期生が帰ってきて、１学年は 108 名３クラス、２学年 115 名２クラスの編成となり、少々手狭に感じる場面もあるとは思いますが、にぎやかに日課を遂行しております。１年生は学年末試験と大型練習船の長期乗船実習、２年生は卒業及び四級海技士（航海）（機関）両科合格、内定した船社の立派な船員を目指し、期待に胸を膨らませて頑張っております。

ダイナミックな自然環境と新「かざはや」

実習室チャートワーク

新かざはやが令和５年２月に福岡県北九州市の東洋造船鉄工㈱で造られました。旧かざはやとの違いは、船体の深さと幅が増え、機関室及び機関制御室の天井の高さも余裕があり広々としています。また上甲板上のハウスを２層構造としています。そのため船首・船尾の甲板配置の班員のみで、船橋下の実習室にてレーダー、電子海図、チャートワークなどの実習を船橋配置に気兼ねなく行うことが出来ます。

船橋はＸバンドレーダー、Ｓバンドレーダー、操舵スタンド、電子海図表示装置、機関制御コンソールを船橋中央にまとめて配置し、レピーターコンパスを船橋前側中央に設置して、旧かざはやでは実施しにくくかった、方位測定による他船との衝突のおそれの判断や、ベアリングによる船位決定実習も行うことが出来ます。船橋も見通しが良く広々しているため、学生は本来の大きさよりも大きな船で実習しているような感覚を持って、気を引き締めて訓練しています。以前

environments make the training of seafarers all the more meaningful.

船橋 航海実習の様子

機関室

機関制御室 チェックをする学生

は出港時にボートフックで船体を押し出して離岸していましたが、現在は船体が大きくなって離岸が厳しく、船首係留索を離した後、船尾係留索を甲板機械で巻締め、船首を離し出港しています。

実習海域である駿河湾は、黒潮の一部が伊豆半島に沿って流れ込み海洋資源に恵まれ、港界から 1 マイルほどで水深 500m にも達し、湾の最深部は 2,500m と日本一の深さがあります。日本一の富士山を望み、ダイナミックな自然環境のもと実習を行うことが出来ます。12 月の海上実習では、ミナミバンドウイルカが数頭、かざはやの船首付近を伴走してくれて、学生たちも歓声を上げて喜び、自然のすばらしさを実感してくれたことと思います。

海のロマンや自然の厳しさと雄大さを知り、船員として必要な資質、知識、技術の基本をしっかり身につけてもらうよう学校を挙げて教育に取り組んで参ります。

清高会の皆様には、今後とも国立清水海上技術短期大学校の発展にご理解ご協力をお願いいたします。

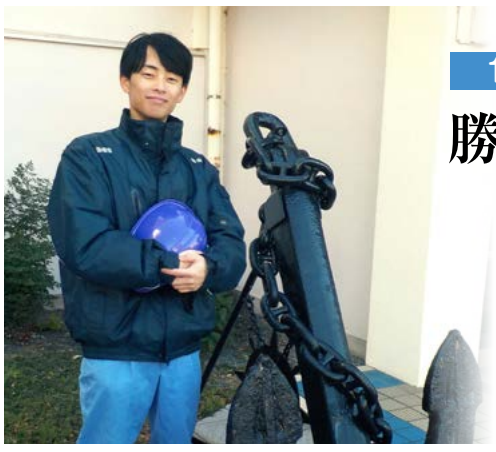
皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

実習室 方位測定

海上実習中に現れたイルカの群れ

在校生の声

令和6年4月入学　専修科第39期生



１年A組

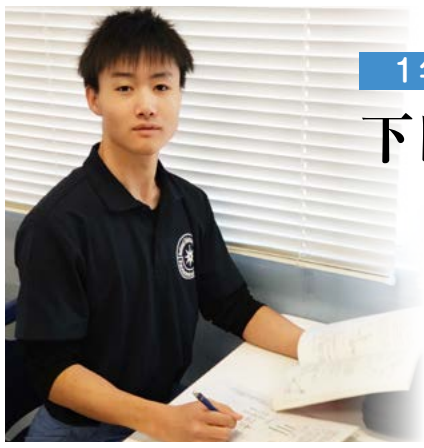
勝呂　颯太

海に興味を持ち出したのは、高校生の頃でした。家が千葉港と東京湾に面しており、日頃から巨大な外航船やフェリーを目にしていて大きな船を動かす船員に興味を持ちました。

しかし、私は商業高校に在学していたため高校時代は検定や部活に打ち込んでいました。そんな中、インターネットで船員を紹介しているインフルエンサーさんを見つけ、国立清水海上技術短期大学校の存在を知ったことが本校へ進学するきっかけになりました。大学進学という選択肢も考えていましたが、本校では大学とは違い、航海と機関の両方の免状を二年間で取れると知り、まだ、どちらの進路に進むか見当がついていなかった私にはこの学校があっていると感じ進学を決めました。

私はこの学校には皆水産系の学校などの海に詳しい人達が集まるのではないかと心配していましたが、実際はそうではなく、普通高校はもちろん工業高校や同じ商業高校、年上の人たちも集まっており、船の知識がなくても楽しく学べる学校で安心しました。寮では初対面同士でうまくやっていけるか心配でしたが、その不安は嘘のように、楽しくて仕方がないです。学校のことだけではなくプライベートの面でも関わりを持ち旅行などにも行っています。また、学校の先生方も優しく質問もしやすい環境です。授業でもテレビや、プリントを使いわかりやすい板書で丁寧に教えてくれます。勉強面だけでなく雑談などもあり生徒とのコミュニケーションが取りやすい環境でびっくりしました。

私たち１年生はあと数ヶ月で乗船実習が待っています。陸から離れることに不安はありますが、同じ船の仲間と協力しこれまで座学で学んできたことを活かして取り組んで行きたいと思います。



１年B組

下田　賢太郎

私が国立海上技術短期大学校に進学した理由は２つあります。

１つ目は、陸上での仕事ではなく、広い海で体を動かしながら働ける船の仕事に魅力を感じたからです。小さい頃から海が好きで、船に乗ることに憧れがありました。

２つ目は、様々な仕事がある中で船員の仕事を見つけて魅力を感じたからです。船員は日本の物流を支える重要な役割を担っています。また、航海士や機関士など専門的なスキルを身につけることができる点にも魅力を感じました。

１年生のうちにやりたいことが２つあります。

１つ目は、ロープワークを極めることです。ロープワークは、船乗りにとって必須のスキルです。授業や実習実技を通して、様々なロープワークを習得し、実践で使えるようにしたいと思います。

２つ目は、海上実習と航機実技を頑張ることです。座学で学んだことを、実際に船に乗って体験することで、より理解を深めたいと思います。また、航機実技では、船の操縦や機関の操作を習得し、将来の仕事に役立てたいと思います。

将来は、内航海運で活躍し、日本の海上物流を支えたいと考えています。また、寮生活で身に着けた協調性を活かして、社会に貢献したいと思っています。

具体的には、以下の３つの目標を掲げています。

①内航海運の第一線で活躍し、日本の経済発展に貢献する。
②寮生活で培った協調性を活かし、チームワークを重視する職場で活躍する。
③周囲に良い影響を与えられるような、人間力豊かな船員になる。

これらの目標を達成するために、この学校で様々なことを学び、

在校生の声

経験していきたいと思っています。

具体的には、以下の 4 つの力を身につけたいと考えています。

①専門知識とスキル：航海士・機関士として必要な知識・技能を習得する。

②コミュニケーション能力：先輩乗組員や関係者と円滑なコミュニケーションを図る。

③問題解決能力：航海中に発生する様々な問題に対し、冷静かつ的確にかつ迅速に対応する。

④リーダーシップ：チームをまとめ、乗組員全員を導く力を磨く。

これらの力を身につけるために、授業や実習に真面目に取り組み、積極的に様々な経験を積んでいきたいと思っています。

また、本校の生活を通して、人間としても成長していきたいと考えています。そして、将来は日本の海上物流を支える一員として、社会に貢献できる人材になりたいと思っています。

以上で自己紹介とさせて頂きます。

1 年C組

松山　一

私が船に乗りたいと思ったのは中学生の頃、未だ将来の夢も漠然としていた頃でした。高校 3 年生の春に進路についてインターネットで調べていた時に海上技術短期大学校の存在を知り、漠然とした夢だった船員という職業に近づくための具体的な道を見つけました。

綺麗な寮が備わり、3 食の食事を出していただけること。取得できる資格では 4 年制大学に負けますが、航海と機関両方の筆記試験が免除されることで両方の資格が得られること、ピカピカの新造船の 2 代目『かざはや』を見て、この清水校への入学を決めました。

入学式の前日、入寮の際に手渡された黒い制服と白い制帽を見て、明日の入学式に向け身が引き締まる思いでした。4 月の陽気の中、張り詰めた空気で行われた入学式の光景は、今でも鮮明に思い出せます。友人ができるかどうか、寮の隣人と上手くやれるのか、いちばんの心配は、無知な私が授業や実習についていけるのか、という不安でした。

ですが実際に学校生活が始まってみると、そんな不安はすぐに取り払われました。もちろん、悩み事が全くなくなった訳ではありませんが、清水はとてもいい街で、充実した商業施設の数や、夏の清水みなと祭り、日常の街道から見える大きな富士山に、日々の悩みも癒されていました。

春も近いながらも寒さは未だ厳しく、頬を刺すような寒さに耐えながら、まもなく海上実習の授業では、練習船かざはやの最後の実習にかかります。恥ずかしながら、この数ヶ月で行われた 40 回あまりの実習で全ての作業を均等に行えた訳ではなく、それぞれの部署ともに決して完璧とは言えません。ですが今日まで教官に教えていただいた事を全て出し切り、実習でなく『実戦』に臨む思いで、本年度最後の実習を遺憾無く終われるよう頑張りたいと思います。

2年生の「声」に続く　▶ ▶ ▶ ▶

（学校 HP から　2025.1.15）

鈴与海運株式会社様から学校に寄附をいただきました！

この度、鈴与海運株式会社様から、本校の教育環境整備の充実のための実習用教材をご寄附いただきました。この場を借りて鈴与海運株式会社様に感謝申し上げます。

こちらの教材は海上実習、航海系および機関系の実習にて大切に活用いたします。

学生からの喜びの声

・この度は多大なるご支援を誠にありがとうございます。

・ご支援いただいた教材は実習をより円滑にし、我々学生の学習に大いに役立っております。心より感謝申し上げます。

ご寄付いただいた教材

■ポータブル
マルチガス検知器　1 台
■ワイヤーカッター　1 台
■コンプレッサー　1 台
■電動式タガネ　1 台
■インカム　送信機 1 台、受信機 15 台

海技教育機構　ご寄附・募金のお願い　日本の船員教育のため、皆様のご支援が必要です。

（詳細はこちら）
https://www.jmets.ac.jp/donation/

3 タイプの寄付金の種類があります。
寄附者は個人、法人を問いません。　（1）使途特定寄附金等　（2）募集特定型寄附金　（3）一般寄附金等

例えば（1）の場合、応援したい特定の学校に対する寄附や「清水校の教材整備に用いること」といった使い道を定めた寄附金ができます。
JMETS の練習船での「洋上での航海訓練の充実のため使用すること」といった使い道も。（QR コードの URL から詳細をご確認お願いします）

※ JMETS は所得税法施行令第 217 条第 1 項第 1 号及び法人税法施行令第 77 条第 1 項に掲げる「特定公益増進法人」ですので、税法上の優遇措置を受けることができます。

在校生の声

令和5年4月入学　専修科第38期生

2年A組

淺倉　圭吾

まずは練習船での実習を無事修了しここ清水三保の学舎に仲間達と帰って来れた事を嬉しく思います。1年次の春、不安な気持ちでいっぱいのまま始まった寮生活でさえ今はどこか懐かしく思うのは不思議な感覚ですが、それほどまでに練習船での実習は新たな体験の連続であり、濃密な日々を過ごしていたのだなと感じます。普通科卒の私には初めての長期の練習船であり、また他校の学生という新たな仲間達と送る日々は決して楽なものではありませんでした。座学では分からない閉鎖された船での生活、自然の厳しさ、実際の現場の緊張感など遠い道のりに挫けそうになる事もありましたが、だからこそ船乗りは高度な知識や技術が求められる専門職であり自らが志した夢なのだと自分を鼓舞し、そして同じ夢を持つ同級生達と支え合いながらそれぞれの目標に向かって実習に励んできました。乗船回数を重ねるごとに少しずつ出来ることが増えていき、当直を終えた後は多くの反省点はあるものの確かな手応えも感じることができました。そして、日本中の海で昼夜を問わず活躍されている先輩方の姿は、憧れと共にこの島国において海運業が担っている責務の大きさを肌で感じるようでした。

また船上生活の各所において清水校の生活の中で教官方から幾度となく指導を受けた事、例えば整理整頓や規律厳守、体調管理の重要さなどの本当の意味が見えてきた様に感じます。学習の面においても航海機関両方の知識を身に付けられるカリキュラムは各部の業務が互いに関わり合って運航される船舶の業務を俯瞰して理解する上で大変有用であると感じました。やはり集団での寮生活や航機両用教育は海技短大の特色であり、同時に大きな強みに出来る事であるな、と身に染みて実感できた次第です。

これからの行事としては卒業式、そして最大の試練にして目標である口述試験が待ち構えるのみとなりました。既に試験に向けて勉強を始めている人も多く校内には緊張感が漂い始めています。

私もこれに遅れることなく2年間の学業の集大成として、全力で試験に臨める様に努力を重ね、新船員として新社会人として大きな一歩を踏み出せるよう、ラストスパートを駆け抜けていきたいと思います。

2年B組

秀野　怜生

国立清水海上技術短期大学校に入学してから早くも2年が経とうとしています。夜空にはオリオン座が光り輝きこの学校で学べる時間も残りわずかとなりました。

中学校時代を海のない長野県で過ごし、高校は新潟県立海洋高等学校で船に乗り、船の楽しさを学んだ私にとって船で働くことは憧れでした。憧れを追いかけて私が選んだ道が国立清水海上技術短期大学校です。

入学してすぐに今まででは考えられなかった厳しい規律や鬼のような怒声を上げる教官方に驚き身が引き締まりました。しかし人間の適応能力はなかなか優れているようで、最初はやっていけるか不安だった私も気がつけばこの環境に慣れていました。

2年生となり私は9ヶ月の乗船実習で様々なことを学びました。私がこの乗船実習を通して感じたことは、これから自分が飛び込む世界では簡単に命を失うということです。船は鉄の塊です。扉でさえも非常に重く挟まれれば痛いだけでは済みません。また甲板機器など至る所に危険が潜んでいます。落水したらプロペラに巻き込まれほとんど助かりません。実際に乗組員の方から教え子が亡くなってしまった話も聞きました。乗船実習ではまず初めに危険な箇所、危険な作業、危険な立ち位置等、危険について教えられます。危険については繰り返し指導され、危険なことをしていれば厳しく怒られました。9ヶ月間船に乗っていても私の知らない危険は山程あることでしょう。今後会社で働くときも安全第一で自分の身は自分で守るという強い意志を大切にしていきたいと思います。

国立清水海上技術短期大学校では、船乗りになるための知識や技術だけでなく様々なことを学びました。愉快な仲間達や個性豊かな教官達と過ごせる時間はあと僅かですが、一日一日を大切にしていきたいです。残りの時間で自分の知識や能力を更に向上できるよう努力を続けてまいります。

新任教官

Challenge!

山浦　照良

昨年 4 月に国立清水海上技術短期大学校に航海科教諭として着任しました山浦照良と申します。

東京都出身で 2022 年 4 月に独立行政法人海技教育機構に採用され、大型練習船銀河丸での 2 年間の乗船勤務を経て現在に至ります。銀河丸では三等航海士として勤務しており、船内設備の整備や実習生の指導を行っていました。練習船とは異なり船について全く知らない学生に一から教えることはとても難しいですがやりがいを感じます。また、練習船よりも学生の入れ替わるスパンが長いため、自身の教えている科目について計画的に指導することや学生それぞれとより多くのコミュニケーションをとることができ、授業や実習、生活指導の質の向上に役立っています。練習船では受け持っていなかった実技や授業の内容についてより深く知る機会となり、教員の私自身もこの 1 年間で大いに成長することができたと感じておりますが、教員としてまだまだ未熟なところが多々あるので先輩方の指導をいただきながら日々業務に励んでおります。

さて、本校の近況についてですが、2023 年に校内練習船かざはやが代替となり 2 年近くが経過しました。海上実習等でのかざはやの運用に職員一同も慣れてきたため細かい修正を加えながら日々、実習の質をアップグレードしております。

今年度は ARPA シミュレーターの設備が一新されました。モニターが薄型で画質もよくなり、ユーザーインターフェースも学生に身近なスマートフォンに近い画面になりました。今年度の分は新替え前に終了してしまったため、まだ新しいシミュレーターを使用して実習は行っていませんが、より充実した実習を行うことができると確信しております。

来年度は 40 期という節目の学生が入学してきます。これは昭和 62 年に専修科が設置されてからの通算の数となります。さらに歴史を振り返ると今年は昭和 19 年に高浜普通海員養成所が設置されてから 81 年目の年となります。このような歴史のある学校で教員が出来ることを誇りに思うと共に、より一層精進しようと身が引き締まる思いです。

このように、日々刺激を受けながら学生に指導すると共に自身も勉強させてもらっています。これらを自分の糧とし学生の模範となれるような教員を目指し日々の職務に励もうと思います。今後ともよろしくお願いします。

先輩から

投稿記事

布花原　槻

35 期専修科卒

35期生として卒業し、機関部員として内航船に乗り始めてから三年が経ちました。学校で学んだ知識を使いながら、さらに知識と経験を重ねる日々が続いています。

特に入社して四ヶ月後に行ったドックは印象的でした。不具合箇所を洗い出してドックオーダーを作り、必要な部品を発注。入渠後はオーダー通りに作業が進んでいるか、新たに見つかったトラブルへの対応まで乗組員だけで行う必要があります。右往左往する私に、チェックのポイントを教えてくれた先輩の頼もしさは忘れられません。

二年目には甲板部員として二回、約半年間乗船しました。操舵号令などは分かるものの、荷役機器の取り扱いや甲板上での整備作業は初めてのことも多く、戸惑うこともありました。ここで助けてくれたのは同期で入社した甲板部の同僚です。身近に悩みを相談し合える仲間がいたことは、とても心強いものでした。

「他社のやり方を学ぶ良い機会だ」と強く後押しされ、今年度は他社への出向、初めての船種も経験しました。主機の出力が桁違いに大きく、油清浄機等の機器類もサイズや数が多く圧倒されました。二機士としていくつかの機器を担当させてもらったことで、日々の作業により一層身が入りました。

振り返ると自分が大変な時は上司や同僚の方々に、たくさん助けてもらいました。今後、職位が上がれば責任も増え、部下を持つこともあると思います。この経験を活かし、後輩にもこの環境を引き継いでいけるよう、さらに励んでいきます。

Graduate & Current student Interview　学校案内から転載

親子インタビュー

38期生
猪田 隆斗さん

13期生
猪田 隆志さん
栄興船舶株式会社 ひまわり９船長

これから船員を目指していく皆さんへ

父の母校で学び、同じ船員の道を目指しています。
船長という仕事の大変さとすごさが理解できました。

── 猪田キャプテン、本校を卒業してからの経歴を教えてください。

【船長】気象庁気象観測船に乗船し、甲板部員として11年間勤めました。その後、現職である栄興船舶株式会社で、グループ会社日本マリンの所有するRORO船に乗船。甲板部→三等航海士→二等航海士→一等航海士と経験を積んで現在は船長をしています。船長になって8年が経ちました。

※ RORO船 (Roll-on Roll-off ship)とは、貨物を積んだトラックやトレーラーをそのまま運べる船のことをいいます。

── 隆斗さんはお父様が船長として普段どんなお仕事をしているか知っていますか。

【隆斗さん】仕事内容は全然知らないです。なにかいろいろと指示を出しているのかなぁと想像しています。

── 普段どんなお仕事をしているか教えてください。

【船長】現在、RORO船（10,626トン、ディーゼル1基、14,940kW）、東京～北海道（苫小牧・釧路）を結ぶ航路で働いています。
入出港操船や狭い海域、船舶が輻輳する海域での操船指揮をしています。

また目的地まで安全にかつスケジュール通りに運航するため、気象情報、航路上の安全情報の収集、乗組員の労務管理を行っています。

── 隆斗さんはお父様の船に行ったことありますか？

【隆斗さん】はい。小さい頃、（船に）連れて行ってもらったことがあります。
『大きいな』『すごいな』って思ったのを覚えています。

── 乗船サイクルや乗船期間中のお休みも教えてください。

【船長】3か月乗船1か月休暇が基本サイクルです。

乗船期間中1 ～ 2か月ごとに数日の停泊日があります。船の停泊期間中、乗組員は船舶保安要員となりますが当直要員を残して上陸することができます。

── 隆斗さんはお家で船の話を聞いたりしていますか？

【隆斗さん】家で過ごすときも（船の）話を聞きますが、父が乗船中も家族で作ったグループチャットでよく船の話をしてくれます。それが嬉しくていつも楽しみにしています。

つい最近は船上でBBQをしている様子を教えてくれました。

── 船員を辞めたい！つらい！と思うときはありますか？

【船長】若い時は自分の考えが通らず不満は多々ありましたが、他者の意見も正しいことを理解し、自分が上位職になったときに部下を指導するための土台であると思い、他者からの情報収集であると自分に言い聞かせ乗り越えました。

── ありがとうございます。隆斗さん、お父様かっこいいですね！

【隆斗さん】船員を辞めたいと思ったことがあるなんてびっくりです。楽しそうに仕事している姿しか知らなかった。『家族のために頑張ってくれてありがとう』って思います。

●最後に

── どんな人が船員に向いていると思いますか？

【船長】船や海に興味があれば大丈夫です。船員の基礎は熱心な先生方が丁寧に教えてくれます。

【隆斗さん】おお。なるほど。私も父のように周りから信頼されるような船員を目指して頑張りたいです。

── 国立清水海上技術短期大学校は船員になりたい皆さんを全力でサポートします！一緒に頑張りましょう！

船内生活では他人を思いやり、尊重し合うことにより
一隻の船舶を安全に運航することができます。
やる気と意欲のある方はぜひチャレンジしてみてください！

Graduate Interview

学校案内から転載

いつも心に太陽を！
仕事も遊びも楽しくやらないと！

機関長 **遠藤 朱梨**さん
(2023年3月卒)

▶本校を卒業してからの経歴を教えて下さい！

2023年4月に近江トラベル㈱オーミマリン彦根港支店に入社しました。4月～5月は甲板員、6月からは機関長として働いています。

▶普段どんなお仕事をしていますか？

現在は琵琶湖の観光船に乗っています。普段は3隻をランダムに乗っていて、それぞれ118トン、62トン、61トンの船です。琵琶湖に浮かぶ島へ定期船として運航しています。船は小さいので船長と機関長の2人乗りで、機関長はエンジンの始動停止、計測の他に港に着いたらロープ取りをします。

▶今のお仕事をやっていて良かったと思うのはどんなときですか?

お給料がいい！（笑）

▶遠藤さん以外にも女性船員はいらっしゃいますか？

女性は自分しかいません。そもそも若い人があまりいませんが、アットホームな会社なので船員の方も陸上の方もみんな仲良いです！働きやすい！

▶乗船中の楽しみを教えてください。

運航中は見張り等厳しいですが、停泊中に船長とお話するのが楽しいです。島へ着いた時は、売店の方とおしゃべりするのも毎日の楽しみです。

いつも心に太陽を！仕事も遊びも楽しくやらないと！

HMI MARINE オーミマリン

国立清水海上技術短期大学校データ（学校公式 HP より）

2023 年度卒業生（107 名）の進路先

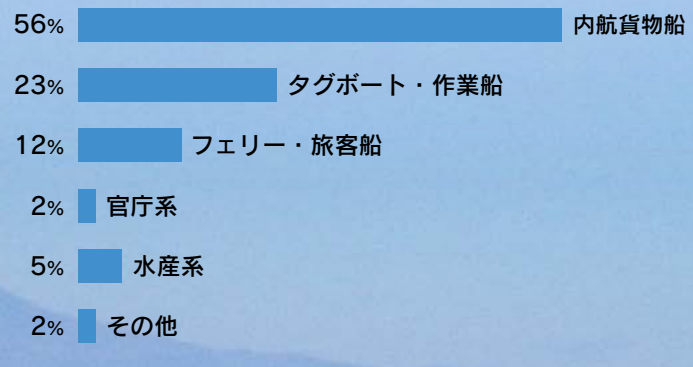
海事関連就職者　100 名

進学者　6 名
（進学先は海技大学校）

就職率　99%
（就職希望者 101 名に占める割合）

海事関連就職率　98%

2023 年度卒業生就職状況



専修科及び司ちゅう事務科　9 期生同窓会

高石　守人　教官 OB

2024年
6月29日
（土曜日）

卒業から30年という節目に、
各方面に散らばっていた仲間が参集しました。

15:00

懐かしい校舎を見ようと次々と昔の仲間たちが…。「えっと…だれだっけ」「司ちゅう事務科の○○です」「えええええ…」会話はほぼこんな感じ。現在の校長先生からご配慮いただき、敷地内を見学することができました。
自分たちの時はなかったプールや新寮など、改めて広い学校だったなと再認識した次第です。
本館前で記念撮影。

17:00

JR清水駅近くの「ブランオーシャン」にて同窓会の本番。
集まった卒業生は専修科10名、司ちゅう事務科30名。教官（当時）は鈴木教頭、佐藤道夫教官、坂田正人教官、佐藤郁夫教官、高石守人教官、黒島義春教官、望月鈴江講師と合わせて47名。
元祖鬼教官が喚くような大声で乾杯の音頭を取って、昭和感丸出しの盛大な会の幕開けとなりました。

20:00

元教官たちがそれぞれの近況を報告。30年も経って皆容姿の劣化（失礼）が見られましたが、声はあの時のままでした。
最後は皆で記念撮影。

板野 隆志（幹事）

在学中、神戸出身の私にとって阪神・淡路大震災というとてもつらい出来事があり、司ちゅう科の仲間が毎日のように励ましてくれ、再会した今回は涙が出そうになりました。当時の教官たちも変わらず、担任坂田教官の小言も変わらずで安心しました。調理師としての礎、あの濃い１年の仲間。海員学校と出会いに感謝です。

幹事として携帯電話のない時代の同窓会、本当に大変でしたが皆様の協力で開催して良かったです。

大久保 淳平

今回参加してくれた教官、司ちゅう科、専修科の皆さんにまずは感謝します。ありがとうございました。

当日は学校見学に始まり、旧友との懐かしい出会い、そして語らいに、楽しく中身の濃い1日となりました。

船乗りとしての厳しさを教えてもらいながら育ち、昭和の古き良き時代に築かれた師弟関係を思い出し、今回、高石教官に勇気をもらいました。（笑）

また皆様に会える日を楽しみにしています。

西村 知津

卒後30年弱、お元気な教官の皆様を拝見できたのが1番嬉しかったです。専修科の参加が少なかったのは現役船乗りが沢山いるってことで、皆頑張っているってことです。船員以外の職でも、当時の昭和魂教育は生きてます。（笑）

元祖鬼教官は永久に不滅です！（笑）

筆者

高石 守人（元教員）

次々とくる卒業生の名前がなかなか思い出せず後ろめたい気持ちがありましたが、皆は私のことを覚えていてくれました。忘れられない厳しかった思い出があるのでしょうか。それでも嬉しい限りです。現在も非常勤講師として宮古の学校で働いていることを伝えると「教官は変わってはいけません。昭和のままでいてください」と勇気（？）づけられました。

元祖鬼教官は永久に不滅です！（笑）

最近の学校ニュース　地域への貢献

内航海運新聞　2025年（令和7年）1月20日号に掲載！

清水海技短大

災害時の海上輸送で静岡県と協定

校内練習船「かざはや」活用

に関する協定締結

協定書を手にする酒井部長（左）と宮野校長

海技教育機構（JMETS）が運営する清水海上技術短期大学校は昨年12月25日、静岡県と「災害時の輸送等の支援業務に関する協定書」を締結した。災害発生時に校内練習船「かざはや」で海上ルートからの支援物資輸送や被災者輸送を行うことで、地域支援に貢献する。

同日、静岡県庁で執り行われた締結式では、宮野将之校長が「可能な限り地域の災害支援に貢献できるよう、日ごろから関係者との連携を意識した訓練を行い、１人でも多くの県民のために全力を尽くしたい」と挨拶し、災害対応力の強化に意欲を示した。

これを受けた県の酒井浩行危機管理部長は「発災直後の応援部隊や支援物資の輸送など連携を強固にして協力をお願いしたい」と述べた。

清水海上技短期大学校
災害時の海上輸送で静岡県と協定
校内練習船「かざはや」を活用

海技教育機構（JMETS）が運営する清水海上技術短期大学校は昨年12月25日、静岡県と「災害時の輸送等の支援業務に関する協定書」を締結した。災害発生時に校内練習船「かざはや」で海上ルートからの支援物資輸送や被災者輸送を行うことで、地域支援に貢献する。

同日、静岡県庁で執り行われた締結式では、宮野将之校長が「可能な限り地域の災害支援に貢献できるよう、日ごろから関係者との連携を意識した訓練を行い、１人でも多くの県民のために全力を尽くしたい」と挨拶し、災害対応力の強化に意欲を示した。

これを受けた県の酒井浩行危機管理部長は「発災直後の応援部隊や支援物資の輸送など連携を強固にして協力をお願いしたい」と述べた。

校内練習船「かざはや」概 要		
	◇竣工＝2023年3月	◇型幅＝6.00m
	◇総トン数＝56総トン	◇定員＝50人
	◇出力＝590kW(802PS)	◇揚貨装置＝1基
	◇全長＝19.92m	◇通信装置＝船舶衛星電話1台

■清高会役員紹介（学校関係者以外）

会　長	清水昭一郎（S36 年卒）		
副会長	植田隆吉（S38 年卒）	松見　準（H6 年卒）	
理　事	小島敦夫（S29 年卒）	萩原　浩（S33 年卒）	大木　明（S35 年卒）
	瀬上　力（S42 年卒）	大貫正博（S42 年卒）	杉山輝男（S42 年卒）
	成澤五郎（S42 年卒）	舩倉満夫（S43 年卒）	風間茂樹（S44 年卒）
	有田義雄（S48 年卒）	泉　昭宏（S52 年卒）	對馬敏勝（S62 年卒）

■編集後記

PDF で会報を発刊して２号目。通常寒い時期に配信する会報が６月にズレ込んだのは、全卒業生が学校に集まれる「総会」の日程をお知らせするためです。（学校の積極的な協力に感謝）

10 月 25 日（土）、みなさん連絡を取り合って清水の学校で合流してください。

今号の「在校生の声」１年生の記事。入学のきっかけは SNS のインフルエンサー。そういう時代に入っていますね。　（編集 松見 準）